

## **EMERGENCY WATCH**



NO. 93 Sep 2018

神戸こども初期急病センタ

2018年8月 受診者数 2029人



急性上気道炎•感冒

2. 感染性腸炎

咽頭炎•扁桃炎

4. 喘息

じんましん

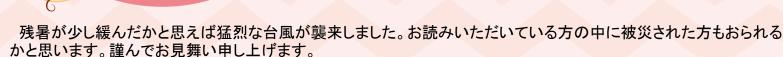
508人

316人

255人

131人

94人



台風の被害の中にも予め非難するなど、一部は防ぐことが可能です。こどもの急病の中にも知恵と経験で防ぐことが できるものがあります。「事故」です。1~14歳の死亡原因の中で「不慮の事故」が1~2位を占めています。今月は 事故についてこどもの成長に沿って分類し、予防について考えたいと思います。

- ●0~4か月:寝返りができる前の段階です。赤ちゃん一人では身動きはできず、危険なものを手で払いのけたりする ことができません。額に貼っていた解熱用のシートがずれたり、ビニールなどが顔面に落ちてきたりして鼻と口の両 方を覆うと窒息します。吐いたミルクが詰まって窒息することもあります。哺乳の後はしっかりげっぷをさせ、遠くから でも赤ちゃんの顔が見えるところでできる限り寝かせましょう。抱っこされたり、クーハンで移動中に連れている人が つまずいたりして赤ちゃんが転落することがあります。赤ちゃんを連れているときは不意にバランスを崩しても赤ちゃ んが落ちないように少なくとも片手は空けておき、バックルベルトなどでしっかり保定して下さい。
- ●4~7か月:寝返りができ、多少の移動ができます。手を伸ばして物をつかみ、口に入れることができます。誤飲・ 誤嚥が起こります。どこの家庭でも気を付けておられるのですが、乳児の視線は非常に低く、親御さんが予想もしな いところで誤飲をします。最近は加熱式タバコのスティック・カプセルの誤飲が増えています。ボタン電池も危険です が後を絶ちません。赤ちゃんと同じ低い視線で部屋を見渡し、お掃除・片付けをしましょう。しっかり抱っこしていても 予想外に強く暴れて(のけぞり)、転落することがあります。
- ●7か月~1歳:移動が素早くなります。予想より早く動き、高い場所に手が届きます。引き続き異物誤飲のリスクが高 いです。お母さん・お父さんが触っていたものに興味を抱き、手を伸ばします。ローテーブルの上は何も残さず、高い テーブルでも端にはものを置かないようにしましょう。何でも手で触ろうとするので暖房器具やお湯でやけどしたり、鋭 いもので切り傷を負ったりします。転倒しても手で守ることができず頭をぶつけます。
- ●1~2歳:屋外でもひとりで歩き始めます。屋内では高いところにものぼります。危険を知らないのでどこにでも行き ます。声で注意しても止まりません。数秒間目を離しただけで車道に出たり、浴槽に転落したりします。「なぜそんなと ころに…」を繰り返します。
- ●3~6歳:早く走ったり、三輪車や自転車で下り坂を駆け下りたりします。お母さんはすぐには追いつけなくなってき ます。ダメだと言われていても意志を持って「いたずら」します。親から離れる時間も長くなります。繰り返し「危険」を 教え「注意」を促しましょう。

http://kodomo-gg.jp/jiko/index.php など、Webもご参考にして下さい。

発行:神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門